

とんだばやし認定調査通信（13号）



この特記事項の内容についてどう考えますか？

4－5. 同じ話をする（有無） 【判断に迷う特記事項の例】

昔から心配性で、「入院中の夫が心配で」といつも話している。

「選択 ある」

【判断に迷う点(気になる点)】

もともとの性格から何回も同じことを言うだけではないのか。

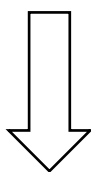
場面や目的からみて不適當な状況があるのか。

【定義】(調査員テキストより)

「しつこく同じ話をする」行動の頻度を評価する項目である。

もともとの性格や生活習慣から、単に同じ話をするのではなく、場面や目的からみて不適當な行動があるかどうかで選択する。

POINT！



場面や目的からみて不適當な行動かどうか確認しよう。

今回の事例の特記事項の内容だけでは、昔からの心配性な性格によるものなのか、場面や目的からみて不適當な行動であるのかの判断が付きません。

明らかに話している内容と無関係に同じ話をする等の状況があれば該当します。

同じように「4－3. 感情が不安定」「4－6. 大声を出す」も場面や目的からみて不適當な行動がある場合に該当するため注意が必要です。

【わかりやすい特記事項の例】

① 「ない」の場合

昔から心配性な性格で、「入院中の夫が心配で」といつも話しているが、場面や目的からみて不適當な行動ではないため「ない」を選択する。

② 「ある」の場合

話をするときは常に「私は自律神経失調症で」から会話を始める。明らかに話している内容と無関係に同じ話をするので、「ある」を選択する。



読み手に伝わりやすい特記事項の記入にご協力をお願いします。

※市町村によって解釈に違いがある場合もありますので、ご注意ください。